



あけまして、おめでとうございます!

田上中学校だより

この学校だよりは、本校HPにてカラー版を公開中です

令和6(2024)年1月9日発行 第11号

〈学校教育目標〉

- たくましい生徒
- なかのよい生徒
- かんがえる生徒
- みずから行う生徒

高く高く、天翔る年に



2024年は、辰(たつ)年。十二支の中で唯一架空の生き物である「竜(龍)」があらわれています。

「竜」は、古来より神獣とされ、中国では「皇帝」のシンボルにもなっています。水中に潜み、そのなき声は嵐や雷雲を呼び、そして竜巻となって天へ昇り、自在に天空をかけめぐる。からだは蛇(へび)、頭は駱駝(らくだ)、角(つの)は鹿、目は鬼、耳は牛、鱗(うろこ)は鯉、爪は鷹(たか)。長いヒゲをたくわえたあごの下には、1枚だけ逆さに生えた鱗(うろこ)があって、これを「逆鱗(げきりん)」と

いいます。竜はこれに触れられるのが大嫌いで、ひとたび触ろうものなら激高し、触れた者を殺してしまふ。ここから、「上司や先生など、目上の人に逆らって激しい怒りを買う」という意味で「逆鱗に触れる」という言葉が使われています。恐ろしいですね。そして、おもしろいのは、「日本列島」そのものがその形から「竜」に見立てられることがあること。そういえば、北海道が頭で、弓形の本州が背、房総、伊豆、紀伊半島あたりの地形の入り組みを手足と見ることができますね。



辰年は、竜なる我が国が天高く飛翔する年、そして、個人的にも昇り竜のようでありたいと思う年なのです。みなさんは、この1年、どんな年にしたいですか？

人として精一杯生きること

今から千年ほど前、中国の胡寅(こいん)という学者が、『読史管見(とくし かんけん)』という書物の中で、次のように述べています。

盡人事而待天命

人事(じんじ)を尽(つく)くして天命(てんめい)を待つ

「人間としてできるかぎりのことをしたら、あとはその結果を天の意思にまかせる」というのです。たとえば、みなさんが努力して勉強し、入学試験に臨んだ後、その合否が発表されるのを待っている時など、こうした表現を使ってその思い・心境を言い表すことがありますね。

しかし、これに対して、明治時代の宗教家の清沢満之(きよざわまんし)さんは、次のように言います。

「人事を尽くして、天命を待つ」ではなく、「天命に安(やす)んじて、人事を尽くす」というのが、本当の生き方なのではないだろうか。

人には、人の力ではどうすることもできない天の意思によって与えられるものがある。逆らうことのできない境遇や人の力では変えられないものなど、それらを天命(天の意思)として引き受け、その中で人として精一杯生きること。これが大切なのではないかというのです。

人としての生き方について、胡寅さんと清沢さんとが時代を超えて向き合う姿がここにはあります。もしこの二人が時を超えて実際に対話をしたら、とても楽しいことでしょう。

そして、きっと最後には、口をそろえて次のように言うでしょう。

いずれにしろ大切なのは、人事を尽くすことさ。

この時期、万全の体調管理を

暦(こよみ)のうえで、1月20日(土)が「大寒(だいかん)」で、最も寒くなる時期となります。風邪をひいたり、インフルエンザをわずらったりしないよう、免疫力を高める生活をこころがけましょう。



1月の予定

- 11日(木) 給食スタート
- 12日(金) 全学年実力テスト
- 12日～ 3年県内私学出願
- 24日(水) 1年 ゲスト講師による「性」についての学習
- 30日(火) 3年県立推薦・特色 スポーツ文化選抜出願
- 31日(水) 第3回 田上中コミュニティ・スクール
- 2月1日(木)・2日(金) 3年県内私学入試
- 7日(水) 3年県立推薦・特色 スポーツ文化選抜入試

